

順天堂大学 vs 福岡大学

12月10日(木) 10:50

川口

1回戦では大阪学院大に先制されるも、後半に鮮やかな逆転劇で2回戦に駒を進めた順天堂大。前半に「教科書通りのカウンターで失点」し、左SBの原田鉄平(2年)が負傷交代するなどのアクシデントもあったが、後半に3点を取った底力は「自分たちのやってきたことを信じた結果だ」と堀池巧監督。「ボールも人も動く、攻守の切り替えを徹底しないと勝てない相手」(堀池監督)という福岡大に、どこまで自分たちのサッカーを貫けるか。九州チャンピオンとして2回戦からの登場となった福岡大は、昨年度大会で関東チャンピオンである専修大を撃破してベスト8に進出。過去にも3度の決勝進出経験をもつ“九州の雄”だ。乾真寛監督は、今年のチームを「個々の能力は過去10年間で最も低いと自覚している」と評するが、全日本大学選抜GKの永石拓海(2年)を中心とした伝統の堅い守りと、ユニバーシアード代表のボランチ木本恭生(4年・C大阪内定)を起点とした速い攻撃に、エースのFW 薮田卓馬(4年)、MF 野嶽惇也(3年)がはまれば、悲願の初優勝も見えてくる。

(文・飯嶋玲子)

30 今川		順大	
4 矢部	13 宮本	12 原田	
3 吉永	24 室伏	8 新里	
10 長谷川		11 米田	
27 杉田	9 佐野		
11 薮田		9 野嶽	
7 川上			
19 田口	15 木本	10 稲葉	
2 瓜生	5 丸尾	4 中島	6 山道
福岡大		1 永石	

明治大学 vs 中京大学

12月10日(木) 13:15

川口

明治大は常に優勝候補の一角にあげられながら、ここ数年タイトルから見放されている。昨年度大会では仙台大に敗れ、まさかの初戦敗退。その悔しさを知るだけに「2回戦からの出場は非常に厳しい。まずは初戦突破できるような全力で挑む」(栗田大輔監督)。主将で名古屋グランパス内定のFW 泉竜司(4年)を筆頭に、Jクラブ内定選手5名を擁するタレント集団だが、それに甘んじることなく「良い守備から良い攻撃へ」というコンセプトを徹底して初戦に臨む。仙台大に2-0とリードされながらも、交代選手の活躍などで後半に3点を奪い逆転に成功した中京大。「取られた2点をはっきりと個人の部分だったので、ハーフタイムで修正は効くと思っていた」(朝倉吉彦監督)とはいうものの、後半に投入され、2点に絡んだMF 小西洋平(4年)や同点弾を決めたFW 猪木遼平(3年)の活躍は「期待以上」と朝倉監督。「ビハインドの状況でも、あいつが入ったら逆転できるという雰囲気になるのは、トーナメントを戦い抜くうえで大事」と、この勢いを次につなげたいところだ。

(文・飯嶋玲子)

1 服部		明大	
3 山越	5 小出	6 高橋	
2 室屋	7 差波	16 柴戸	
18 道淵	10 和泉	11 藤本	
22 岩田		19 藤島	
10 橋本			
9 水野(翔)	4 青木	16 江口	6 水野(隼)
7 鈴木	13 舩沢	26 村瀬	
中京大		30 川村	

★大会公式プログラム★

各会場プログラム販売所にて、大会公式プログラムを1冊1,000円で販売中！
巻頭「浦和レッズ 宇賀神友弥×武藤雄樹」の流経大出身選手の特別対談は必見！！

★ユニフォーム型ストラップ★

出場全大学のユニフォーム型ストラップを販売いたします！1個500円。
64回大会にちなんで、64th All Japan Championshipの特別仕様。観戦の記念に是非。

★I PLAY FOR PHOTO BOOK★

インカレ出場全大学の選手・スタッフの想い「I PLAY FOR…」が詰まった大会公式グッズ！
1冊500円。冊数限定なのでお買い求めはお早めに！！

◇(一財)全日本大学サッカー連盟公式SNS◇

全会場・全試合リアルタイム速報はTwitter: @JUFA_soccer
大会期間中の感動の名シーンの振り返り Instagram: @jufa_japan

アパマンショップ Presents 平成27年度第64回全日本大学サッカー選手権大会

OFFICIAL MATCH DAY PROGRAM

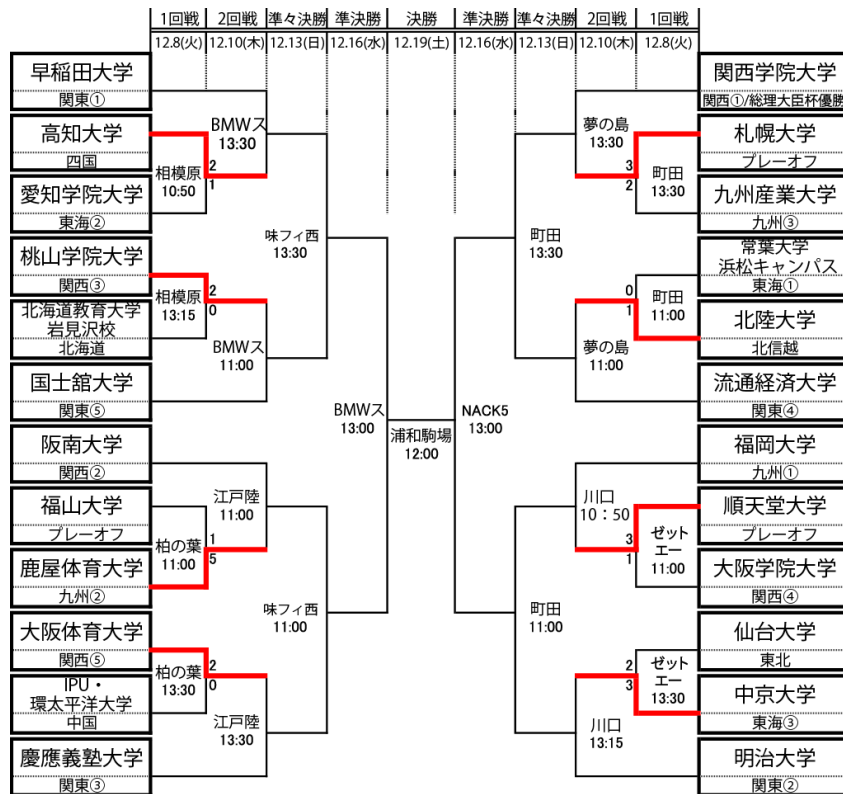
展望

NO.2

発行：一般財団法人 全日本大学サッカー連盟

1回戦 試合結果※12月8日(火)

◇相模原ギオンスタジアム	[1] 高知大学 2-1 愛知学院大学	[2] 桃山学院大学 2-0 北海道教育大学岩見沢校
◇千葉県立柏の公園総合競技場	[3] 福山大学 1-6 鹿屋体育大学	[4] 大阪体育大学 2-0 IPU・環太平洋大学
◇ゼットエーオリブリススタジアム	[5] 大阪学院大学 1-3 順天堂大学	[6] 中京大学 3-2 仙台大学
◇町田市市立陸上競技場	[7] 北陸大学 1-0 常葉大学浜松キャンパス	[8] 九州産業大学 2-3 札幌大学



浦和駒場:浦和駒場スタジアム/BMWス:Shonan BMW スタジアム 平塚/NACK5:NACK5スタジアム大宮
味フィ西:味の素フィールド西が丘/町田:町田市市立上競技場/江戸陸:江戸川区陸上競技場
夢の島:江東区夢の島競技場/川口:川口市青木町公園総合運動場/相模原:相模原ギオンスタジアム
柏の葉:千葉県立柏の葉公園総合競技場/ゼットエー:ゼットエーオリブリススタジアム

桃山学院大学 vs 国士舘大学

12月10日(木) 11:00
BMW ス

無事に初戦を突破した桃山学院大だが、1回戦の北海道教育大岩見沢校戦は試合終盤まで得点が奪えず、苦しい展開に。楚輪博監督は、「勝たないといけないけど、色んなプレッシャーを感じたと思うけど、一つ突破して、楽になるはず。今度は関東代表なので、胸を借りるつもりで挑みたい」と口にした。緊張から解放された2回戦は、単調になりがちだった攻撃を立て直すかが勝敗のポイント。「前線のアイディアがどこまで通用するか試したい」と話すMF伊藤圭斗(4年)らが持ち味を発揮すれば、勝利も見えてくる。				21 洲上				桃山大			
29 仲	5 熊谷	3 小田	26 岩崎	10 伊藤	15 藤城	7 堂園	23 棕木	13 中井	9 岡		
9 荒木	16 松本	11 山本	10 高見	6 藤岸	4 中村	3 福田	2 山田				
2回戦からの登場となる国士舘大は、細田三二監督が「相手を尊重して勝負に挑みたい。開始のホイッスルから終了のホイッスルが鳴るまで、自覚と責任を持ち全力で戦う」とコメント。189人いる部員全員の想いを背負いながら、モットーである「相手より一歩でも多く、一歩でも速く」という戦いを貫き、準々決勝進出を狙う。初戦ならではの堅さが想定される中、関東リーグ得点王のFW松本孝平(3年)、アシスト王のMF荒木翔(2年)ら実力派が揃う攻撃陣がいかに早く得点を奪えるかが勝敗を分ける。				1 奥津				国士大			
(文・森田将義)											

早稲田大学 vs 高知大学

12月10日(木) 13:30
BMW ス

19年ぶりの関東リーグ制覇を達成した勢いそのまま、早稲田大がインカレの初戦に挑む。今季、チームが掲げるのは「リーダー主体から個性主体への脱却」「奪取速攻」というスタイルをベースに一人ひとりの強みや人間性が、表現できるチーム作りを行ってきたことが激戦区・関東を制する要因となった。また、「勝つための現実的な戦いで勝負する」と古賀聡監督が口にするように、思い通りの試合展開にならなくても、泥臭く勝利を目指すのも今年の特徴。初戦の緊張を跳ね除けることができるか注目だ。				1 後藤				早大			
2 新井	3 奥山	4 金澤	12 八角	7 田中	6 平澤	14 小林	8 秋山	9 吉本	10 山内		
11 藤川	18 勝田	19 元田	7 下園	12 山崎	20 藤井	23 西埜植	4 西岡	3 山下	2 帷		
一方の高知大は近年、鬼門となっていた初戦を無事に突破。目標とする4強入りへ一歩、前進した。ただ、1回戦の愛知学院大戦は前半こそ攻守ともに上々の出来を披露したが、後半は守備が乱れ、攻撃にボールが入らず。主将のDF西岡大志(4年)は「次は、たぶん点差が開かない試合になる。いかに耐えて相手の隙を突けるかが大事」と気を引き締めた。90分間、守備の集中を切らさないことはもちろん、関東1部リーグで最少の19失点を記録した堅守をいかに崩すかが勝敗を左右する。				1 福島				高知大			
(文・森田将義)											

阪南大学 vs 鹿屋体育大学

12月10日(木) 11:00
江戸陸

昨季ベスト4の阪南大は悲願の初優勝に向け、「色んな状況が相手の戦い方に、対応できるようなチーム作りをしてきた」(須佐徹太郎監督)。武器となるのは、MF八久保颯(4年)、FW外山凌(3年)によるサイド攻撃。二人を活かす中盤も、関西リーグの後期は怪我で戦列を離れていたMF重廣卓也(2年)が復帰し、ユニバーシアード代表のMF松下佳貴(4年)とのコンビに期待がかかる。一方、今季は勝負所での弱さが目立ち、いつ負けてもおかしき試合が多かったのも事実。無事に初戦突破を果たし、勢いに乗れるだろうか。				1 大西				阪南大			
6 田淵	5 甲斐	4 大野	3 康	9 八久保	7 脇坂	14 松下	11 外山	15 前田	10 山口		
33 福森(勇)	8 中原	13 福森(健)		5 寺田	10 松田	4 木佐貴	2 藤山	27 森川	19 向高		
対する鹿屋体育大は、福山大との1回戦は序盤こそ堅さが見られたものの、前半のうちにきっちり2得点。後半からはフォーメーションを変更し、中盤でのセカンドボールの回収とサイド攻撃を促進するなど柔軟な試合運びによって、最終的には5-1まで持ち込んだ。得点のうち3発は、「九州リーグでもMF松田天馬(2年)から良いボールが入るの、持ち味になっている」(青木竜監督)というセットプレーから。途中出場で2点を奪ったFW片井巧(2年)と共に、2回戦でも有効活用できれば勝機が広がるはずだ。				1 馬渡				鹿屋大			
(文・森田将義)											

大阪体育大学 vs 慶應義塾大学

12月10日(木) 13:30
江戸陸

2年前の第62回大会で大学サッカーの頂点に立った大阪体育大は、1回戦でIPU・環太平洋大と対戦。ユニバーシアード代表のFW澤上竜二(4年・C大阪内定)が29分に先制点を挙げ存在感を示すと、さらに77分に2得点を決めて2-0と完勝。幸先のよいスタートを切った2回戦に進出したが、坂本康博監督は「この大会に臨むにあたって、最後の攻めのディフェンスというところをもう一度作り直してきたが、今日の試合では中盤構成がなかなかうまくいかなかった。」と反省しきり。その課題を、2回戦でどう修正して臨むのか。				21 野坂				大体大			
2 太田	3 羽田	13 山田	30 小川	9 安田	8 後藤	17 森永	11 久保田	10 澤上	6 池上		
19 松木	8 山田	4 宮地	13 手塚	6 井上	2 望月	5 久保	3 溝渕	11 山本	20 田中		
2年連続17回目の出場となる慶應義塾大は、「堅守速攻を基盤にミスのないチームを目指してきた」と、須田芳正監督。注目選手は、新潟内定でユニバーシアード代表のMF端山豪(4年)。巧みなゲーム展開でチームを牽引し、見ている人をプレーで魅了する。また、鋭い攻撃でゴールを果敢に奪いに行くエースストライカー、FW山本哲平(3年)にも要注目だ。「1回戦を勝ち抜いてきたチームの勢いに負けないように、試合開始から全員で戦いたい」と総力戦で挑む。				1 宮原				慶大			
(文・KUSS)											

流通経済大学 vs 北陸大学

12月10日(木) 11:00
夢の島

昨年度のインカレ王者である流通経済大は、今大会に関東第4代表として出場。「守備には自信がある」(中野雄二監督)と言うように、関東リーグでも屈指の失点の少なさが武器だ。柏レイソル内定のDF湯澤聖人(4年)を怪我で欠くものの、長崎内定のDF田上大地(4年)や主将のGK中島宏海(4年)ら、昨年の優勝を経験した選手も多数残っている。「優勝するために次戦以降のことも考えた戦い方をしたい」(中野監督)と、連覇に向けて準備は万端だ。				1 中島				流経大			
2 亀島	15 今津	5 田口	6 小池	14 渡邊	4 塚川	10 古波津	9 中村	11 ジャーメイン	9 金		
8 大澤	7 菅原	25 横山	10 越	5 佐藤	6 武井	3 望月		4 深井	2 野崎		
3回目のインカレ出場となった北陸大は、常葉大浜松キャンパスと対戦。試合序盤はペースを掴まれるも、我慢強い守備からチャンスを作り、後半にFW大澤敬(4年)のゴールで先制。「ハーフタイムで修正したことを選手がうまく理解してくれて、1点に繋がった。苦しい展開でも慌てることなく、集中力を切らさなかった」と、西川周吾監督。北陸大はそのまま1点を守り切り、悲願のインカレ初勝利を掴んだ。2回戦の相手は昨年度チャンピオンの流通経済大だが「臆することなくチャレンジできたい」(西川監督)と、この勢いを次に繋げたい。				1 谷垣				北陸大			
(文・KUSS)											

札幌大学 vs 関西学院大学

12月10日(木) 13:30
夢の島

1回戦で九州産業大と対戦した札幌大は、開始早々に先制点を許す苦しい展開となったが、前半のうちに逆転。後半に再び、試合を振り出しにされたが、終了間際の得点により、辛うじて2回戦に駒を進めた。「課題はたくさんあった」と木島敦コーチが話したように、苦戦した要因を中1日でいくつ潰せるかがこの試合の鍵となるのは間違いない。特に2失点した守備の改善は急務。「何とか失点を抑えて、拮抗した展開に持ち込みたい」と木島コーチは意気込むが、結果ははたして。				1 花田				札大			
8 竹林	20 工藤	4 廣瀬	6 池田	30 阿部	29 大友	5 土谷	39 岡部	10 澤野	11 下田		
8 小林	14 福富	7 徳永	28 高尾	16 小川原	3 井筒	15 米原		13 呉屋	9 井岡		
夏の総理大臣杯を制した関西学院大は、全国2冠なるか注目が集まる。ただし、「大会初戦はいつも難しい試合になるので、万全の準備をして挑みたい」と成山一郎監督が口にしたように、大臣杯の初戦となった2回戦の高知大戦は、エンジンがかからず延長戦までもつれる結果に。今回はできるだけ早い時間帯に試合を動かし、楽な試合展開に持ち込みたいところだ。エースであるFW呉屋大翔(4年・G大阪内定)の警戒が予想されるため、MF森俊介(3年)、MF小林成豪(4年・神戸内定)ら2列目がいかに得点を奪えるかが試合のポイントになる。				1 上田				関学大			
(文・森田将義)											